

社会科部門

総評

今回の社会科部門は、東日本大震災を通じて「防災」「発電」「節約・節電」などをテーマに選び、身近なところで実践した作品が多くみられました。研究テーマを決める上で最も大切なことは、自分が知りたいと思ったり、疑問だと思ったりから選ぶことです。身のまわりの物やできごとを目を向けて「なぜ?」「どうして?」と想ったりを探してみましよう。

賞 文部科学大臣奨励賞

新茅ヶ崎文化資料館構想

神奈川県 茅ヶ崎市立小和田小学校 6年 関口 桜至朗

「茅ヶ崎文化資料館」が地域の文化を残す場所になるよう、理想的な施設設計を提案した作品です。実際に様々な施設を巡り、雰囲気・安全性・環境・ユニバーサルデザイン、展示方法などを模索していきます。

最後には、「文化を残す」ということは、単に物を保存するだけでなく、「良いことも悪いことも伝えた上で、人々が幸せに生きていくきっかけになるものでなくてはならない」と考えます。郷土を愛し、よりよいとすることを「感動し」と考えます。「郷土」という共通のテーマで毎年継続的な研究を行った桜至朗くん。その集大成となる本作が文部科学大臣奨励賞を受賞しました!



賞 子どもの文化・教育研究所 理事長賞

自動販売機 いる? いらない?

千葉県 松戸市立北部小学校 3年 森川 彩音

東京都知事の発言をうけて、自動販売機が必要かどうか、調査を始めた彩音さん。まず、自分が住んでいる町の自動販売機の台数が、予想以上に多いことに驚きます。そこでまわりの人が自動販売機をどのくらい利用しているのか、アンケートを行ったり、工場見学に赴いたりします。

調査をして浮かび上がった疑問点を更に調査していくという、徹底した事実調べが高い評価につながりました。調査結果から、「こうすればもっと良くなる」と提言している点も素晴らしい傑作です。



賞 日本社会科教育学会 会長賞

レタスのおいしさのひみつ

千葉県 市川市立真間小学校 4年 浅岡 郁哉

近所の八百屋で買ったおいしいレタスに感動した郁哉くんはレタスについての調査をはじめます。

まずは地元のレタス作りを取材、そして長野県川上村へ赴き、農協へのインタビュー、レタス農家での収穫体験など実践的な調査を進めます。その中で様々な発見をして驚く様子がよく伝わってきます。

3・4年生で学習する地域の産業や消費生活の様子を、レタスをテーマに詳しく丁寧にまとめたすばらしい作品です。



賞 中央出版株式会社 社長賞

今わたしにできること

東京都 白百合学園小学校 3年 長谷川 晶子

「地球のためにできること」という大きなテーマを選んだ晶子さん。地球温暖化や自然破壊など、地球のさまざまな問題を挙げ、まずはエネルギーの無駄遣いをやめることが重要だと考えます。そこから、節電や節水が必要だという考えに至り、自分ができる節約方法を考えたり、その方法が有効かどうか、実験をして確かめたりしています。

140ページを綴る大作ですが、構成がよく練られた、情報編集力の高い作品です。



写真や資料、インデックスを使って見やすく整えられています。

賞 優秀賞

わたしは小さな親せん大使
ようこそ小さい後の日本へ
世界中からのしえんに感しゃして

東京都 白百合学園小学校 4年 金子 瑞花

10歳からの哲学入門

東京都 白百合学園小学校 5年 菅原 麻未佳